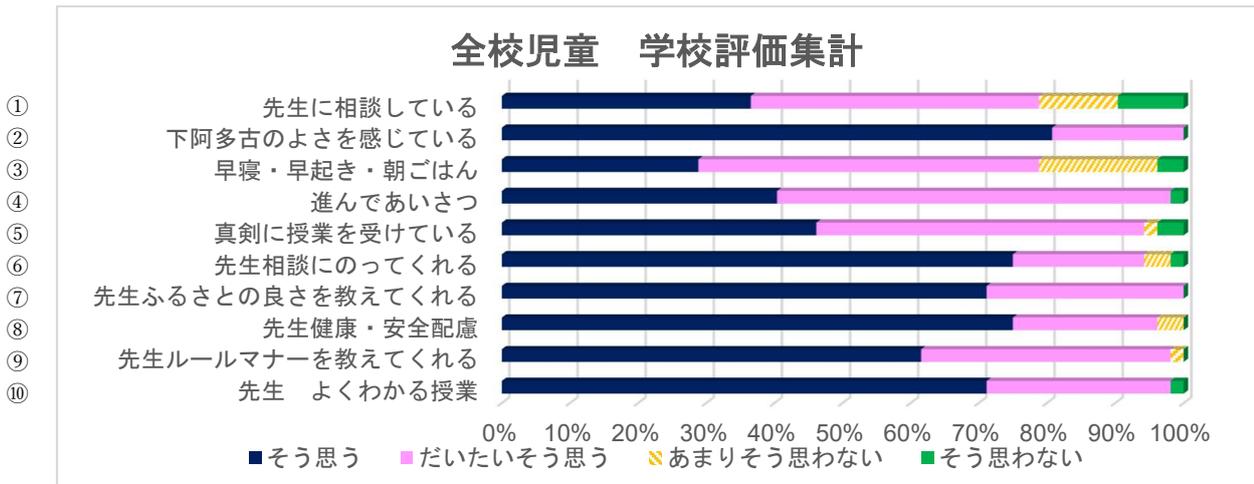


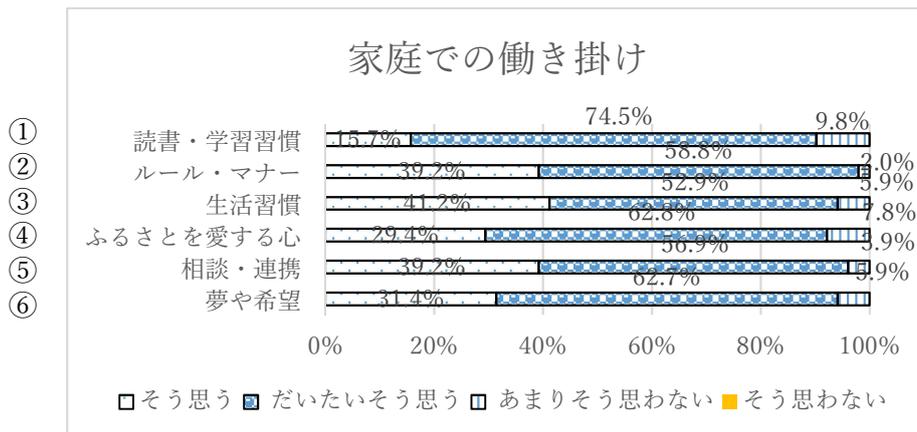
1 児童・保護者アンケート集計



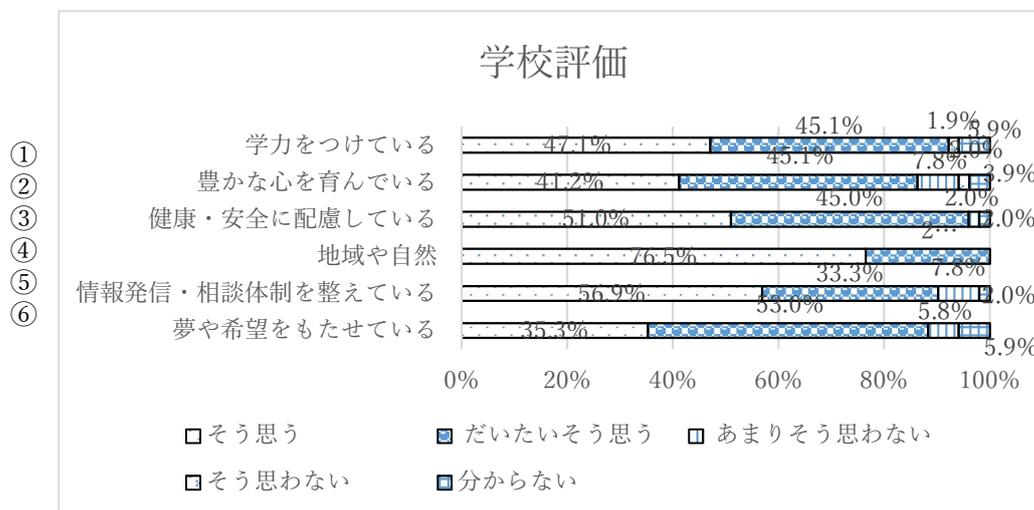
②、⑦の項目について、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が100%であることは、大きな成果と捉えている。本校では、自然に恵まれた環境のもと、川遊びや米作り、まち探検など一年を通して様々な教育活動が展開されている。その中で、子供たちは四季を感じたり、勤労の精神を培ったりすることができた。このことについては、地域の方々の協力も大きく、様々なことを学ぶ機会も多かった。これらの活動を通して、子供たちは改めて自分たちの住んでいる地域の良さを感じられたと考える。次年度以降も、地域の方々との連携を大切にしていきながら、子供たちにとってさらに自慢できる学校作りを目指していきたい。

①、⑥、⑧、⑨、⑩の項目から、子供たちと職員との関係が良好であることが結果から推測される。小規模校という特性から、学級の垣根を越えて、全職員で一人一人の児童を見守っていく意識をもって、日々指導に努めている。子供たちが気軽に相談できる雰囲気作りを、今後も大切にしていきたいと考える。

③の項目について、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、約80%となっているが、学年が上がるにつれて、その割合が低くなってきている傾向にある。学校としては、毎月位置付けられている「健康安全の日」に、自分自身の生活習慣についてきちんと振り返りができるように指導していきたいと考える。この点については、家庭の協力も不可欠となってくるため、家庭に配布する学年便りや保健便り等で呼び掛けたり、懇談会の場でも話題にしたりしていきたい。正しい生活習慣を送ることで、心にも余裕が生まれ、楽しく学校に通うことができたり、集中して学習にも取り組んだりすることができる姿を目指していく。



「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合が一番高かった項目は、③であった。今後も、家庭と学校が連携を図りながら、子供たちの健やかな成長を目指していきたい。①の項目についても、高い割合を示している。日々の家庭学習の取り組みについては、家庭の協力が不可欠で、低学年の段階からその基礎作りをしていく必要がある。年度初めに「家庭学習の手引き」を各家庭に配布することで、学習に対する構えを理解してもらえるように努めていきたい。



全ての項目で、90%以上の割合で「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。各家庭での子供たちへの働き掛けは全体的に良いと捉えている。

④の項目が、一番良い結果として表れている。この点については、地域の方々の協力がとても大きく、子供たちも、普段の授業の中では学ぶことのできない体験をすることができている。活動の様子をブログや各種便り等で発信することで、保護者にも周知されていると考える。

2 学校関係者評価

2月10日(金)に開催された学校運営協議会において、自己評価及び考察について報告をした。委員からは、どの評価項目も高く大変うれしいという声があった。また、子供たちがしなやかに力強く、外部の人を受け入れる雰囲気があり、先生方が子供たちを伸ばしてくれていることを実感したとの感想があった。

特に、地域とのかかわりを問う項目については評価が大変高く、学校が地域との関わりを大切にしていることがよく分かる結果が出ているとの意見をいただいた。今後も地域や家庭と協力し、ふるさとに心をよせる子を育ててほしいという要望があった。

3 学校関係者評価を受けて

○R5年度は、創立150周年の節目を迎える。日頃の教育活動と関連付けた取り組みを行うことで、「地域を愛する子」の育成を今後も目指していく。

○懇談会や各種便りを通して、「家庭学習の手引き」の活用による家庭学習の習慣化や早寝・早起き・朝ごはんの効果や栄養バランスの大切さを啓発していく。

○子供たちが、学びの意義を感じたり将来への希望につなげたりできるような指導方法を工夫していく。